**市長室から（3月6日記）**

**新年度を迎えて**

　降雪の大変多かった冬も急激に雪解けが進み、まだ肌寒さを感じる中にも心地よい日差しの感じられる季節となりました。

　市民の皆さんは、いかがお過ごしでしょうか。

　毎年この季節になると感じますが、北国では草花が一斉に顔を出して春を歌い上げ、子供たちは新入進学の時を迎え、自転車が軽快に走り出し、人々の動きが活発になり、心弾む勢いを感じるのは私一人でしょうか。

　三笠市は新年度のスタートを迎え、3月の定例市議会で市民生活に必要な関係予算が審議され議決いただいていますが、今年は統一地方選挙の年であり、新しいマチづくりなどに必要な政策予算は、6月の定例市議会で議論いただくことになると考えています。中心市街地の再整備、新桂沢公園関係、高校生レストランに来られる多くの方の対応、災害時における市内避難所の通信強化、防災無線計画などであり、6月までに更に詰めを行い提案することとなります。

　さて、私が就任して4年になりましたが、この間に解決できていない問題があります。

　一つは、ご承知のとおり東清住地区の養豚施設からの臭気問題であり、現在、係争中ですが、臭気がある限りどこまでも手を緩めることなく対処していきたいと考えています。市民の皆さんのご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

　また、もう一つは、市立病院の在り方の問題です。

　先日、三笠市医師会から、今後の市立病院の在り方について意見が提出されましたが、私としては、現状、市立病院は、市民の健康を守るうえで大切な機関であり、規模を人口動態に合わせて検討しながら将来に残していきたい機能と考えています。三笠市医師会では、建物の老朽化、医師不足、経営上の問題などについてご心配いただき、ご意見をいただいたものと考えますが、高齢化が進む当市にこそ、市民にとって必要とされる機能を出来るだけ備えた病院が何よりも近くの場所に必要であり、また、道内各地から高校生を迎え入れているマチでもあり、その健康維持は重要であるとも考えています。

　私は、今後益々、医療が必要なマチになると考えており、三笠市医師会にご心配いただいている点や財政事情が許す限り、病院機能はスリム化したとしても存続させたいと考えています。

　ただし、この問題は私一人で結論を見い出せるものではなく、市民みんなで検討すべきものと考えており、皆さんの中には私と違うご意見もあろうと考えておりますので、まずは、病院職員を含めた市職員内部での今後の人口動態の見通し、適正規模なども含めた検討を行い、その結果によって市民の皆さんのご意見もお聞かせいただきたいと考えています。

　28年度の市政懇談会で、私は市民の皆さんに、病院内部での各種対策に対する状況を検証するため5年間の検討期間をいただきました。この間、病院内部で各種検討、対策、取り組みをいただき今日を迎えていますが、それらの実績を見ながら、多くの意見の中で最終的な判断をしたいと考えていますので、ご承知おきください。

　こうした課題への対処とともに、新しいマチづくりにも果敢に取り組んで参りたい所存でおり、今後とも、市民の皆さんのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

（広報みかさ平成31年4月号に掲載したものです。）